

## 熊本市金峰山における非常に遅いハチクマの繁殖例

井上賢三郎<sup>1</sup>・白石久善<sup>2</sup>・河端正太郎<sup>3</sup>・矢次智浩<sup>4</sup>・中尾禎志<sup>5</sup>

1. 日本野鳥の会 〒862-0947 熊本市画図町重富 11-4

2. 日本野鳥の会 〒861-4101 熊本市近見 2-1-30

3. 日本野鳥の会 〒861-2236 熊本県上益城郡益城町広崎 496-5

4. 日本野鳥の会 〒862-0924 熊本市帯山 1-33-25

5. 日本野鳥の会 〒868-0024 熊本県人吉市鶴田町 803

ハチクマ *Pernis apivorus* は春に九州以北に渡来して繁殖する夏鳥で、環境省レッドリスト(環境省 2006)で準絶滅危惧種に指定されている希少な猛禽類である。長野県では長年にわたり詳しく調査されてきたが、九州における繁殖の実態はまだあまりよくわかっておらず、情報の蓄積が必要といえる。熊本県では、1992年に初めて旧球磨郡深田村の山林でハチクマの繁殖が確認されたが(井上ほか 2006)、それ以降も県内の数か所で繁殖が確認されている。

熊本市金峰山の繁殖地では、2010年に例年より1か月以上遅いハチクマの巣立ちが確認されたので、ここに報告する。

調査地である金峰山山系は、中央火口丘である金峰山と、外輪山となる西の向山・北西の河内山・北の熊ノ岳・北東のおはぎ山などからなる。2006年以降のハチクマの営巣林は西の標高360mほどの向山に位置している。営巣林を観察する為、営巣林とその周囲をよく見渡せる金峰山の北西麓の斜面を横切る車道付近や、北に位地する標高685m熊ノ岳南斜面の車道付近に、6ヶ所ほどの観察地点を設けた(詳しい場所は保護のため本稿では示さなかった)。観察

には、双眼鏡(8~10倍)や望遠鏡(20~35倍)・望遠レンズ(400~500mm)を装着したデジタルカメラを用いた。

調査期間は2010年5月15日から9月28日までの延べ37日間であった。調査地点には、1~3人を配置し、観察時間は9時から15時の間として、繁殖つがいの行動や非繁殖個体の行動を観察した。ハチクマの飛行を観察した時には、必要に応じて各個体の写真を撮影して個体識別に努めた。また、ハチクマが営巣林に入った際には、巣の中の様子や巣の周囲の様子、ならびに繁殖つがいの様子や雛の様子を観察し写真を撮影した。更に、雛が成長して営巣林の上空を飛び回るようになると、その様子も写真に撮り記録した。

以下に、記録の詳細を述べる。

5月15日、金峰山の西斜面と熊ノ岳の南麓で10:30~15:00の間観察をおこなったが、ハチクマは観察されなかった。

5月22日、金峰山の西斜面と北斜面で11:30~15:30の間観察をおこなったがハチクマは観察されなかった。

6月1日、雄個体が金峰山の北斜面上空を暫く舞った後、熊ノ岳の西側へ滑空して

---

2011年3月2日受理

キーワード：ハチクマ, *Pernis apivorus*, 熊本県, 繁殖

西尾根を越えるのが観察された。

6月12日、金峰山の北西斜面上空で4個体が同時に旋回するのが観察された。(2個体は繁殖つがいと思われた)

6月16日、雌個体が5cmほどの白く丸い物を持って熊ノ岳の南麓上空に出現し、旋回上昇後に金峰山の南東斜面へ入るのが観察された。

6月17日、雄個体が熊ノ岳の東斜面上空から金峰山の東麓方面へ飛行するのが1回観察された。

6月19日、雄個体が西の方から滑空して来て金峰山北麓の標高200mほどの広葉樹林に入るのが観察された。

—この間、梅雨に入り観察する機会がなかった—

7月19日、熊ノ岳の南麓で、09:50～15:40の間観察をおこなったがハチクマは観察されなかった。

7月20日、熊ノ岳の南麓と金峰山東麓で、10:30～16:00の間観察をおこなったがハチクマは観察されなかった。

7月22日、金峰山の西斜面上空で、同時に舞う雄2個体を確認した。この2個体は翼や尾羽の形状が別の雄個体とは違い、全体の色も白っぽかった。

7月23日、熊ノ岳の南麓で、10:00～14:30の間観察を行ったがハチクマは観察されなかった。

7月25日、雄個体が河内山の南側で旋回上昇後、熊ノ岳から東へ伸びる尾根の方へ滑空するのが観察された。

8月9日、雄個体が河内山の上空でサシバ *Butastur indicus* に追われた後、熊ノ岳

の南斜面に入るのが観察された。

8月10日、繁殖個体と思われる雄個体が昨年の営巣林から出ると、繁殖個体と思われる雌個体が熊ノ岳よりキアシナガバチ *Polistes rothneyi* van der Vecht の巣と思われる丸く白い物(撮影した写真から推測)を、前年に営巣木が確認された林(以下この林を営巣林と記述)へ持ち帰るのが観察された。

8月12日、繁殖個体と思われる雌個体(以下繁殖雌)が、金峰山の北西麓で旋回上昇した後、東方面へ滑空するのが観察された。

8月13日、繁殖個体と思われる雄個体(以下繁殖雄)が、キアシナガバチの巣と思われる物を営巣林へ運ぶのが観察された。

8月14日、繁殖雌が、昨年の営巣林上空で非繁殖個体と思われる別の雄個体を追い払い、急降下の後に上昇して失速したところで翼を体の上方で振るわせるディスプレイ飛行をおこなった。追い払う際に、サシバの場合と同様(伊関 未発表)に追われる方が尾羽を広げ、追う方が尾羽を閉じている様子が観察された。

その後、キアシナガバチの巣と思われる物を繁殖雄と繁殖雌がそれぞれ営巣林へ運ぶのが確認された。例年の熊本のハチクマの繁殖状況を考えると、既に巣立っているか巣立ち間近の時期であったため、営巣林の踏査を行ったところ、巣は営巣林の下部にある胸高直径50cmのムクノキ *Aphananthe aspera* (Thunb.) Planch. にあり、巣内には孵化後7日齢ほどと推定される雛1羽が時々ゆらゆらと頭を持ち上げているのが確認された。この巣は、2006年



図1. 巢内で給餌する繁殖雄個体と、30日齢前後の雛



図2. 巢内で給餌を受けた後の30日齢前後の雛

と2008年の繁殖の際にも使われ、その際にはそれぞれ1羽と2羽のヒナが巣立った場所である。今回は雛が孵化した後は他のタカ類のように巣の上に青葉（ヒノキ）が敷かれていたが、巣の縁や巣の下には2006年と2008年同様に糞の痕跡は殆どなかった。

8月18日、20cmほどの幼蛇のような物を成鳥が2回巣に運び込んだところが確認された。

8月28日、巢内で繁殖雄が雛にハチの巣から幼虫を取り出して給餌する様子が観察され、雛の羽毛には少し黒い風切羽が出現していた。

9月5日、繁殖雄が、ニホンアマガエル *Hyla japonica* をくわえて営巣林に入るのが観察された。その後、巢内でハチの幼虫を給餌する繁殖雄と推定30日齢前後の雛を確認した（図1, 2）。雛が巣の上にしかり立つことができ、生育は順調だと思われた。

9月18日、巣立ったと思われるこの巢の幼鳥が巣の周囲50mほどを飛び移り、巢

の近くに来た繁殖雄に対して、鳴き声をあげて餌をねだる様子が観察された。近くの樹上から親鳥の声がして雛もその声に応答していた事から、親鳥が巣立ちを促しているように思われた。

9月21日、ハチ（種不明）の巣を営巣林へ運んだ。

9月24日、幼鳥が、営巣林の上空で旋回上昇中にサシバから追われたが、逃れて南東1kmの小高い山まで羽ばたいて飛んだ後、引き返して営巣林の上方にあるスギ *Cryptomeria japonica* (L.f.) D.Don の梢に一旦止まり、5分後に営巣林に入った。

9月25日、幼鳥が、営巣林の上空を飛び回るのが観察された。

9月28日、幼鳥が、営巣林の上空でハシブトガラス *Corvus macrorhynchos* 2羽に追われたが、なんとか逃れた（図3）。その後、繁殖雄が、直径10cmほどのスズメバチの巣と思われるものを営巣林に運び込むのが観察された（図4）。

10月1日、金峰山の北西麓で



図3. 営巣林上空を飛ぶ幼鳥と、追い出そうとする2羽のハシブトガラス



図4. 雛の巣立ちの頃、営巣林へスズメバチの巣と思われる物運ぶ繁殖雄

11:45~16:00の間観察を行ったが、営巣林やその近くではハチクマの姿は見られなく、少し離れた金峰山や熊ノ岳にて観察があった。しかし、距離が遠く、繁殖に関わった個体かどうかの判断はできなかった。

2010年の金峰山におけるハチクマの繁殖ステージについてまとめると、繁殖においては観察途中でわかった事も判断基準として、6月1日に金峰山北麓で繁殖雄が観察され、6月12日には繁殖雌个体を含む4羽が観察されている事から、渡来時期は例年とそれほど違いがないと思われる。6月16日には白い餌のようなものを成鳥が営巣地に運搬している。8月14日に巣の様子を確認した際には、巣内におよそ7日齢と思われる雛1羽が確認され、巣の縁には7月25日の調査時には確認できなかったヒノキの青葉も認められた事から、雛は8月10日頃に孵化したと思われる。森岡ほか(1995)によると、ハチクマの抱卵期間は30日~35日で育雛期間は35日~45日で

ある事から、その平均値である33日と40日を参考に幼鳥の巣立ちから逆算すると、7月10日前後に抱卵を開始した事になる。9月21日には営巣林の周囲では何も観察されなかったが、9月25日に営巣林の上空を飛びまわる幼鳥が観察されているので、幼鳥が上空を飛び回れるようになったのは9月22日を過ぎてからであると思われる。以上から、2010年のハチクマの繁殖は例年通りに進行していたのにも関わらず、何らかのアクシデントがあり繁殖が1回中断され、2回目の繁殖でようやく幼鳥の巣立ちが出来た可能性が考えられる。

この繁殖の遅れについては、2010年の気象条件が深く影響した可能性が考えられる。渡来時期が例年通りであったのであれば、7月10日頃に雛が生まれるのが熊本では一般的であるが、2010年の7月3日と7月4日に30mmを超える雨が降り、7月9日と7月12日から7月14日の3日間に50mm前後の大雨が記録された(気象

庁)。孵化直後の雛は、体温調節ができない事から親鳥の抱雛が必要となるが、この期間の多量に降った雨の為に親鳥の抱雛によっても体温調節がうまく出来ずに、雛の体温が奪われてしまい、繁殖に失敗した可能性が考えられる。尚、2008年と2009年の繁殖期の天気と比較してみると、2008年には7月10日前後に雨が多量に降った日はなく、2009年には7月10日前後に雨が多量に降った日は1日だけであった。また、2009年の7月3日から7月15日までのトータル降水量は105mmであったが、これは2010年の7月3日から7月15日までのトータル降水量である277mmの38%である(2008年 気象庁、日ごとの記録データはない)。2008年と2009年の雛の巣立ちは8月15日頃に観察されているが、2010年においても繁殖は例年通りに推移していたのに多雨により1度目は失敗し、その直後に再び産卵して2度目の繁殖に入った可能性が考えられる。その後、7月20日以降は熊本地方での梅雨が終わった事で連続して多量の雨が降る日がなく、2度目の抱卵と育雛は順調に推移して9月25日に幼鳥が営巣林の上空を飛び回るに至った。気象庁による熊本地方の過去の天気では、巣立ちを迎えるまでの間に熊本地方で一日中雨が降った日はなく、一時的に雨が降った日が23日あっただけである事から、雛が孵化した後は天気に恵まれ、育雛はおおむね順調に推移したのではないかとと思われる。2010年9月の熊本地方においては、月の最低気温が20℃以下となったのは14日と17日および23日以降(27日

を除く)で、9月22日までは8月と変わらない暑さが続いており、繁殖が1か月も遅れたにも関わらず雛の成長には都合が良かったと思われる。

気象条件以外に、ハチクマの例年通りの繁殖がうまくいかなかった理由があるとすれば、7月19日に熊ノ岳の南西麓から営巣林の方へ飛ぶオオタカ *Accipiter gentilis* の目撃例がある事から、雛が孵化した直後にオオタカに襲われた可能性も皆無ではないだろう。

また、営巣林の周囲には、繁殖に関わらない非繁殖雄個体が2羽観察されたが、調査期間中には1kmほど離れた金峰山の北西麓上空での2回の観察と、営巣林上空での2回の観察があった。これらの非繁殖雄個体が営巣林上空に飛来した際には、2度目の繁殖で雛が孵化して数日が経過した頃と思われる為、明らかに金峰山の繁殖雌による追い出しがおこなわれ、翼を上方で振るわせるディスプレイが観察された。

#### 謝辞

久野公啓氏には今回の発表内容についてコメントをいただいた。また、上田恵介氏と三上かつら氏には発表に関するご指導をいただいた。英訳は井上裕加里氏にお願いした。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

#### 引用文献

- 井上賢三郎・皆吉悦夫・西照信・船方義輝・工藤栄介・本田和彦. 2006. 熊本県におけるハチクマの生息状況 *Strix* 24: 153-159.
- 環境省. 2006. 環境省報道発表資料 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリスト

- の見直しについて. 環境省, 東京.  
 気象庁. 過去の気象データ(オンライン) <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 参照  
 2010年12月20日.
- 森岡照明・山形則男・叶内拓哉・川田隆. 1995.  
 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 清棲幸保. 1978. 日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京  
 高野伸二. 1976. 自然観察と生態シリーズ 7: 日本の野鳥. 小学館, 東京

### A month delayed breeding of the Eurasian Honey Buzzard in Kumamoto Prefecture, southern Japan

Kenzaburo Inoue<sup>1</sup>, Hisayoshi Shiraishi<sup>2</sup>, Shotaro Kawabata<sup>3</sup>,  
 Tomohiro Yatsugi<sup>4</sup> & Tadashi Nakao<sup>5</sup>

1.11-4 Shigetomi, Ezu, Kumamoto, Kumamoto 862-0947 Japan

2.2-1-30 Chikami, Kumamoto, Kumamoto 861-4101 Japan

3.496-5 Hirosaki, Mashikimachi, Kamimashiki, Kumamoto 861-2236 Japan

4.1-33-25 Obiyama, Kumamoto, Kumamoto 862-0924 Japan

5. 803 Turutamachi, Hitoyoshi, Kumamoto 868-0024 Japan

In 2010, we observed an about one month delayed breeding of the Eurasian Honey Buzzard *Pernis apivorus* at Mt. Kimpo in Kumamoto, southern Japan. As in other years, however, the Eurasian Honey Buzzard came to Kumamoto in spring. We found a nestling which was about seven-days-old in a nest on 14 August. It seemed that the chick fledged on 18 September. Heavy rain in mid-July in the study area might have made this pair re-breed. On the other hand, good weather and high temperature in September probably contributed to the successful breeding.